

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	フェリクス曾根 (放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 11日	～	2024年 12月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2024年 12月 16日	～	2024年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・TEACCHプログラムや、ABA(応用行動分析)の考え方に基 づいて支援環境の構造化に取り組んでいる。	・児童一人ひとりに合わせた個別のスケジュールボードを用 意し、イラストや文字で活動や予定の見通しが持てるよう にしている。 ・タイマーや個別の時計を用い、活動の切り替えのタイミン グを事前に子どもたちに伝えている。	・児童の障がい特性や発達段階を考慮しながら、より良い支 援の仕方を引き続き検討して取り組んでいく。 ・職員全体で統一した支援が行えるよう研修を重ね、意見や アイデアを出し合っていく。
2	・集団活動では、児童の感覚統合を目指して音楽療法(ミュー ジックケア)に取り組んでいる。 ・スヌーズレンを行う環境を整え、児童の興味の幅を広げた り、心身の安定を図ったりしている。	・音が苦手な児童や集団が苦手な児童には、曲の選定や参加 の仕方に配慮して行っている。 ・児童が興味を示し、無理なく参加できるよう、児童の様子 を丁寧に観察し、促しを行っている。 ・一人ひとりが安定した空間で過ごせるよう、個室は時間を 決めて順番に交代で利用している。 ・子どもたちと手作りのグッズを作って、光や色の変化を楽 しめるようにしている。	・様々な感覚を味わうことができる活動を増やしていく。 ・嗅覚、触覚にも心地よい刺激が得られるような道具を準備 したり、光のバリエーションを増やしたりしながら、興味が 広がるようにしていく。
3	・屋内外ともに、広めのスペースがあり、ボール運動や走る 活動などに取り組める環境である。	・走る活動やボール運動時は、スペースをパーテーションで 仕切ったり、活動内容によって時間で交代したりしながら、 安全に配慮して行っている。 ・ボールの素材、種類を活動ごとに使い分け、安全面に配慮 している。	・屋外(庭)の環境整備を行いながら、季節を感じられる活動 や、自然に触れる活動を企画していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域とのつながりが十分にできていない。	・開所初年度ということもあり、地域とのかかわる機会が十 分に取れていなかった。	・地域の情報収集を積極的に行い、子どもたちの活動につな げていける取り組みを検討していく。 ・地域の方とのかかわりを大切にしながら、つながりを広げ ていくよう努める。
2	・事業所の情報発信が少ない。	・HPやSNS等を活用した情報発信が十分にできていない。	・HUG(成長療育支援システム)の導入により、保護者への情 報発信をWEBで行えるようにしていく。 ・事業所の安全対策等に関する各種マニュアルについては HPを活用して発信し、周知を図っていく。
3			